

CSとカリキュラム・マネジメント —光り輝け城南プライド—

山本 浅幸

愛媛県宇和島市立城南中学校 asayuki0230@gmail.com

要約：消滅可能性都市に指定された宇和島市は、少子高齢化に伴う担い手不足による地域産業の衰退や地域の伝承文化の消滅が危惧されている。その中で、よりよい学校教育がよりよい社会を創るという目標のもと、新学習指導要領が完全実施となる。その切り札となるのが、コミュニティ・スクールとカリキュラム・マネジメントである。

カリキュラム・マネジメントの責任者である校長は、学校の強みと弱みについて教職員と共通理解しながら、グランドデザインを示し、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムづくりを行った。

さらに、学校運営協議会で学校経営方針を基に、総合的な学習の時間を柱とした学習活動への協力を依頼する中、学校運営協議会委員のそれぞれの強みを生かした協力体制が整えられ、新しい取組が次々と生まれた。

本稿では、コミュニティ・スクールを導入し、カリキュラム・マネジメントの充実を図ることで、生徒の郷土愛の醸成や課題に立ち向かう力の向上につながった実践例を紹介する。

キーワード

コミュニティ・スクール
カリキュラム・マネジメント
グランドデザイン
総合的な学習の時間
郷土愛の醸成

1. 城南中学校の概要

宇和島市は、愛媛県の西南部に位置している。城南中学校は、昭和22年の学校創立以来、城西中学校、九島中学校（昭和45年）、宇和海中学校（平成27年）など周辺部の中学校を統合したため、12の小学校区があったが、閉校や休校措置により、現在は8つの小学校区から生徒が入学している（図1）。また、半島部や島しょ部の生徒のための寮も併設している。城南中学校は、宇和島市の中心部に位置し、校区には、足摺宇和海国立公園を始めとした豊かな自然、重要歴史的景観に指定された遊子水荷浦の段畑（図2）に代表される多様な文化、現存十二天守の宇和島城を中心とした城下町などの古い歴史、水産業・農業・商工業・観光業等の宇和島の基盤となる産業があるなど、豊かな地域資源に恵まれている。

宇和島市は、かつては愛媛県南予の産業の要所としての役割を果たしてきたが、近年は若者の流出、人口減少、少子高齢化、産業の低迷、後継者不足など様々な課題を抱えており、地域の活性化、雇用の創出などによる魅力ある街づくり、持続可能な社会や産業づくりが急務となっている。



図1. 校区の概要（赤 閉校 緑 休校）

また、人口減少により、地域の伝統文化、地域の祭りの継承が難しいこともあり、地域の伝統行事を取りやめる地域も目立ち始めている。このような状況もあり、地域の次代を担う後継者としての期待が中学生に注がれている。

令和2年度の生徒数（226名）は、平成元年度（1,018名）に比べ、78%も減少しており、部活動を始め、様々な教育活動において学校の勢いがなくなっている。生徒は、地域活動や行事に参加する経験が乏しく、地域の良さを知らない生徒が多い。地域活動や行事への参加を通して、地域の良さを知り、郷土愛を育成することも大きな課題となっている。加えて、平成27年度の宇和海中学校の統合から日が浅く、旧宇和海中学校区住民からは、地域の学校としての愛着が弱いなど、本校の特有の課題がある。



図2．遊子水荷浦の段畑（重要文化的景観）

2．総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメント

(1) コミュニティ・スクールのスタート

平成30年、宇和島市では民間人として初めての登用となった金瀬聡教育長が、次の経営ビジョンの中でコミュニティ・スクールの導入を示し、平成30年12月の教育委員会規則の改正により平成31年から、各学校の希望により学校運営協議会が発足することとなった。

【3つの変化と4つの方向性】

- 1 今後の社会の大きな変化
 - ① 少子高齢化・人口減少社会
 - ② 第4次産業革命による超スマート社会(Society5.0)の到来
 - ③ 人生100年時代の到来
- 2 変化を踏まえた取組の方向性
 - ① 愛郷心の醸成(シビック・プライド)
 - ② 変化する社会を見据えた「生きる力」、学力・資質の育成(21世紀型能力)
 - ③ 学校・家庭・地域との連携(コミュニティ・スクール)
 - ④ 働き方改革(チャレンジに向けた余力・やりがい・いきがいの創出)

愛媛県では、コミュニティ・スクールの導入が遅れたものの、宇和島市では、文部科学省CSマイスターで宇和島市立吉田中学校長(当時)の西村久仁夫氏を中心に、コミュニティ・スクールの導入に向けて小・中学校長会の政策課題として研修を重ね、準備を行っていた。

城南中学校では、令和元年度から学校運営協議会をスタートした。委員は、12小学校区から自治会長や公民館長、小学校長、PTA関係者や学校評議員、SSWなど計21人で構成した。

(2) 城南中学校運営協議会の開催と学校経営方針の承認

4月1日の年度初めの職員会でのワークショップ(図3)を基に、SWOT分析を行った。

- 城南中学校の支援的要因と強み(◇ 地域について ◆ 生徒について)
 - ◇ 校区が広く、多様な職種があり、働く姿が見える。
 - ◇ 多様な価値観や意見があり、特色ある学校づくりへの可能性が高い。
 - ◇ 子どもに関心があり、何でも連絡していただける。

- ◇ 宇和島の中心となる地域に暮らし、誇りをもっている。
- ◆ 元気で明るい生徒が多い。
- ◆ 人懐っこい。
- ◆ 自己主張がしっかりしている。
- ◆ エネルギーと社交性があり、行事での爆発力がある。



図3 . ワークショップの様子

- 城南中学校の阻害的要因と弱みから（◇ 地域について
 - ◆ 生徒について）

- ◇ 校区が広く、地域の様子が分かりにくい。
- ◇ 地域によって意識に差がある。
- ◇ P T C 活動（保護者、教職員、生徒の奉仕活動）の参加率が下がっている。
- ◇ 正しくない情報を元に連絡してくることがある。
- ◆ 学校行事や部活動の練習で手を抜くことがある。
- ◆ あいさつが弱い。
- ◆ できるのに進んでしない。
- ◆ けじめがつきにくい部分がある。

S W O T 分析を基に、二つの基本的な方策を考えた。

一つ目は、城南中学校の支援的要因と強みを生かし、豊かで多様な地域とそこで生活する地域の人々との関わりを深め、自信と誇りを持ち、可能性に挑戦する生徒を育成するために、総合的な学習の時間の充実を図る。

二つ目は、城南中学校の阻害的要因と弱みを踏まえ、豊かな感性を備え、他者を尊重する生徒や郷土愛をもち社会のために貢献する生徒を育成するために、城南中学校運営協議会の協力の下、ボランティアや地域活動、学校行事など生徒活動の活性化を図る。

第 1 回城南中学校運営協議会で、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという観点から、「夢をもって、社会の中で生き生きと働くことのできる人の育成」を学校運営協議会の目標とし、次の学校経営方針（図4）が了解された。

- 城南中学校運営協議会の目標

夢をもって、社会の中で生き生きと働くことのできる人の育成

- ・ 宇和島で働き、地元を元気にできる人
- ・ いずれ宇和島にUターンし、宇和島に新しい風を吹き込める人
- ・ 他の地域で働いていても、いつも宇和島を愛し、宇和島を応援できる人

- 学校教育目標

自立と共生の力を持つ生徒の育成

- ・ 自立の力とは（身に付けさせたい資質・能力）
 - ① 自分の考えや気持ちを表現し、伝える力
 - ② 物事の本質を見抜き、広い視野で客観的に判断する力
 - ③ 問題解決のために、自ら考え、見通しをもち、行動する力
 - ④ 何事もポジティブに捉える力
 - ⑤ プロセスや結果を振り返り、修正や改善する力
- ・ 共生の力とは（身に付けさせたい資質・能力）

- ① お互いの人権を尊敬する力
 - ② 多様な価値を認める力
 - ③ 互いの個性を尊重する力
 - ④ 社会の形成者としての自覚をもち、他と協調しながら自ら進んで行動する力
 - ⑤ 社会的・経済的に公正な社会を築こうとする力
- 合言葉
「光り輝け、城南プライド」
 - 目指す子供像
 - 1 自信と誇りをもち、可能性に挑戦する。
 - 2 豊かな感性をもち、他者を尊重する。
 - 3 郷土愛をもち、社会のために貢献する。
 - 5つの重点目標
 - 1 生徒活動の活性化
 - 2 総合的な学習の時間の充実
 - 3 主体的・対話的で深い学びの創造
 - 4 言語技術教育の推進
 - 5 学校運営協議会の円滑な導入

(3) 総合的な学習の時間を柱としたカリキュラム・マネジメント

新学習指導要領では、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るために、カリキュラム・マネジメントの確立が重視されている。新学習指導要領の完全実施に向けて、次の理由により、総合的な学習の時間を中心にカリキュラム・マネジメントの確立に向けた実践研究を行った。

- 本校の生徒の課題解決に向けて取り組みやすい。
- 地域資源が活用しやすい。
- 教科等の関連が付けやすい。
- 社会の要請に応じた教育活動を作りやすい。

特に、総合的な学習の時間の取組を通して、人口減少に伴う地域文化の継承といった課題の克服や、地域に生徒や学校運営協議会が関わることによる地域のにぎわいの創出、生徒活動の活性化、郷土愛の醸成が図られると考えた。そこで、各学年の目標と内容を次のように設定した。

第1 学年

目標 光り輝け！城南プライド「12'Colors」宇和島の自然，歴史，文化，産業を知る。

内容 地域の自然や文化，歴史を知り，自分の生活との関わりを考えるとともに，その魅力を発信する。

第2 学年

目標 「市民生活学」宇和島の諸課題を学び，宇和島の暮らしを知る。



図4. 城南中学校グランドデザイン

内容 主権者教育，環境教育，人権教育，福祉教育，防災教育を柱に，様々な体験的な活動を通して，地域社会と自分自身のとの関係性に注目し，自分の生き方について考える。

第3 学年

目標 「UWAJ I MA ジョブチャレンジ U-15」宇和島の仕事を体験し，宇和島で生きることのよさを知る。

内容 5 日間の職場体験や職業についての探究活動に主体的に取り組み，働くことの社会的な意義や自分の役割，自己の将来の生き方を考える。

(4) 社会に開かれた教育課程

城南中学校運営協議会で，総合的な学習の時間の目標や内容を説明し意見交換を行う中で，地域学習のおすすめの場所，地域の人材，地域の課題，地域のイベントなどの紹介を各委員から受け，年間計画や授業計画に反映することができた。また，委員自ら講師になっていただき，学校のねらいに即した幅広い授業を行うことができた。

学校・家庭・地域連携推進事業により地域コーディネーターが設置された。地域コーディネーターは，前任校（城東中学校）で学年主任を最後に退職された方に，城東中学校との兼務という形でお願いした。地域コーディネーターは，学年主任の経験を生かし，地域学習の講師との連絡調整，社会福祉協議会等との連携，職場体験学習の受け入れ先の確保など，各学年の計画に沿ってコーディネートを行う他，城南中学校運営協議会の開催や記録，地域コーディネーターだよりによる広報活動を行った。

3. 各学年の取組

(1) 第1 学年の取組 光り輝け! 城南プライド「12'Colors」(図5)

生徒を，出身小学校を基本に7 つの講座に分け，インターネットや文献，ガイドブック，家族や地域の有識者への聞き取りなどを通して，地域の自然や文化，歴史，産業などにさまざまな視点から考え，地域課題や地域の取組について調べることとした。

このような事前学習を基に，10 月には講座ごとに地域を訪れて地域探究学習を実施した。生徒自身が体験してみたい内容を中心に据え，1 日掛けてじっくり体験できる活動を事前に話合わせた。体験活動の講師は，城南中学校運営協議会の地域コーディネーターを活用した。地域コーディネーターは，生徒の希望や状況に応じた講師を探し，連絡調整を行った。今年度のカリキュラム・マネジメントについて，城南中学校運営協議会で説明し理解を得ていたことで，講師の中には，地元詳しい学校運営協議会の委員や市議会議員，それらの委員の紹介で講師を引き受けてくれた方もいた。「九島講座サイクリング要所巡り」，「日振島講座マグロ餌やり体験」，「石応の防災への挑戦体験」など各講座で魅力的な活動を実施することができた。



図5. 1 年総合全体計画

① 遊子・結出・蔣淵講座の取組

遊子地域には、昭和36年以降、持続可能な海づくりを提唱し、捕る漁業から育てる漁業（養殖業）への転換を図り、見事にそのシステムを構築した古谷和夫氏の存在があった。古谷氏は、遊子の漁協が破綻した後に漁協の代表となり、多くの苦難を乗り越えながら、未来まで続く持続可能な養殖業を作り上げた人物である。調べ学習では古谷氏のルーツを探る遊子地域探検を実施した。

遊子地域のイワシ漁が不漁になり漁業が破綻したこと、漁協の人たちが協力して古谷氏の教えを守ろうとしていること、婦人会がE M石鹸で海の汚染を防ぐ活動を続けていること、海の水質が悪化し魚が取れなくなったときの保障として、段々畑を守ってきたことなどを知ることができた。古谷氏の思いが地域住民の心に刻まれ、受け継がれていることを体験的に学ぶことができた。

地元出身の生徒は、家庭が養殖業に従事していてもこのことをあまり知らなかった。しかし、この体験をきっかけに、古谷氏のおかげで遊子地域の漁業が存続できているということを実感した様子であった。

② 劇「いのちなる海」

平成31年2月に亡くなった古谷氏の功績を、このまま地域に埋もれさせることはできないと考え、その生涯の活躍を、劇「いのちなる海」として制作することとした。生徒や教師が協力して調べたことや著書などを基に、古谷氏の功績をストーリー化したのち、劇の脚本を作成した。劇の練習は授業内だけでなく、休日の部活動終了後や夏休み中にも行った。

③ 坊ちゃん劇場アウトリーチ事業の活用（※ 坊ちゃん劇場 愛媛県東温市にある地域拠点型劇場）

「本物体験」を実現するために、劇の演出には坊ちゃん劇場のアウトリーチ事業を活用した。坊ちゃん劇場の役者さんから、ワークショップ（図6）で心を前に開く方法を教わったり、演技方やセリフの表現の仕方を学んだりした。また、実際の劇中の動きについて手や足の位置や目線の使い方、セリフを発する向きなどを教わった。生徒の中には心を開いてセリフを伝える表現の仕方を身に付け、豊かな表現力を発揮できる者も出てきた。また、幕間ごとに生徒の責任者を置き、セリフの読み合わせや動きの練習などに主体的に取り組めるようにした。生徒の中には、セリフの言い回しを変えたり、より動きが見えやすいように立ち位置を工夫したりする者も現れた。また、大きな声で全体を鼓舞し、雰囲気盛り上げることができるようになった。



図6．プロによる立ち位置の指導

④ 城南祭（文化祭）での上演

城南祭では、全ての学年が学習の成果を報告した。1年生は、7つの講座で調べた内容を、用紙や映像などにまとめて展示した。また、劇「いのちなる海」はステージで全校生徒や観客の前で上演することになった。劇の上演については、事前にポスターを作り、広報活動を行い、遊子地域の方々や古谷氏の家族の方にも案内状を送付した。劇に出演する生徒は初めのうちはとても緊張していたが、観客に古谷氏の功績をしっかりと知ってもらいたいという強い思いをもち、全力で演じることができた。

⑤ 遊子小学校での劇の上演

城南祭（文化祭）での上演後、2度目は本校の小学生体験入学で、そして、3度目は遊子小学校の体育館で、魚食推進事業の一環として、地域の方々や小学生を招いて上演することとなった。公民館からの依頼ではあったが、もともとは城南祭の上演を見て感銘を受けられた方が、地域での上演を熱望したことがきっかけであった。生

徒は、再度忙しくなることにとまどいながらも、しっかりとニーズに応え、更に良いものを演じようという気持ちになっていった。

上演後、地域の方々からは、涙を流しながら感謝の言葉をいただくこともあった。生徒の感想からも生徒の成長や劇の公演の成果を実感することができた。また、新聞記事への掲載、テレビ番組での紹介、地域の方からの感謝の手紙の送付などもあり、地域の魅力発信や地域の活性化の目的を一部達成することができた。

遊子地区は平成 26 年度をもって地元の宇和海中学校が閉校し、城南中学校と統合した。地元の出身の中学生が、母校の小学校を離れても地域のことを思い、成長して戻ってきたことが地域の方々にとってはとても嬉しかったようである。劇の公演の後には、古谷氏の戦友たちが涙を流しながら拍手をしていた。



図7. 遊子地区での公演

⑥ AR 機能を使ったアプリでの発信

学習の最終的なゴールと定めた「AR 機能を使ったアプリ」での発信のために、7 つの講座で調べた内容をスライドショーや映像に加工し、生徒の紹介音声をつけて電子データとしてまとめた。それらを学年で制作したリーフレット「うわじま・まちあるき」(図8)にまとめ、タブレット端末やスマホ等でQRコードを読み取って見られるようにしたものを、各家庭や公民館、小学校や関係者等に配付した。

社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学びの実践事例として、学校に来校された方や、連携をさせていただき事業所などにも配付し、学習の成果の発信を行った。



図8. リーフレット「うわじま・まちあるき」(表・裏)

(2) 第2 学年の取組 光り輝け! 城南プライド「市民生活学」(図9)

市民生活学は、「宇和島で暮らす」という視点から、生活者としての5つの内容(主権者教育、環境教育、人権教育、福祉教育、防災教育)を関連付けながら学習する。生徒は、様々な体験的な活動を通して、地域社会と自分自身のとの関係性に注目し、自分の生き方について考え、社会の一員としてよりよい社会づくりの担い手になることをねらいとしている。主権者教育では、市議会議員の上田富久氏、防災教育では、NPO法人うわじまグランマの松島陽子氏が講師になるなど、学校運営協議会委員に多くの支援をいただいた。

① 主権者教育

主権者教育は、中学生では3年生の社会科(公民分野)と関連して、議会制度などの学習を行う。しかし、12月には2年生が立候補する生徒会長選挙があるため、2年生で民主主義の仕組みや議会制度などを学習することに意味がある。3年生での学習の素地づくりと位置付け、議会制度の仕組みについて社会科教員による簡単な事前学習を第1次として行った。

9月定例議会(一般質問)の傍聴を第2次の学習に位置付け行った。理事者と議員との激しい論戦を初めて見聞きし、民主主義の厳しい一面を実感することができた。

校区内には9人の市議会議員がおり、議員としての仕事を聞く会を第3次(図10)として行った。各グループ学習で、宇和島の未来を創るために、それぞれの思いを聞くことができ、意見交換をする中で街づくりに対する意識の高揚が図られた。

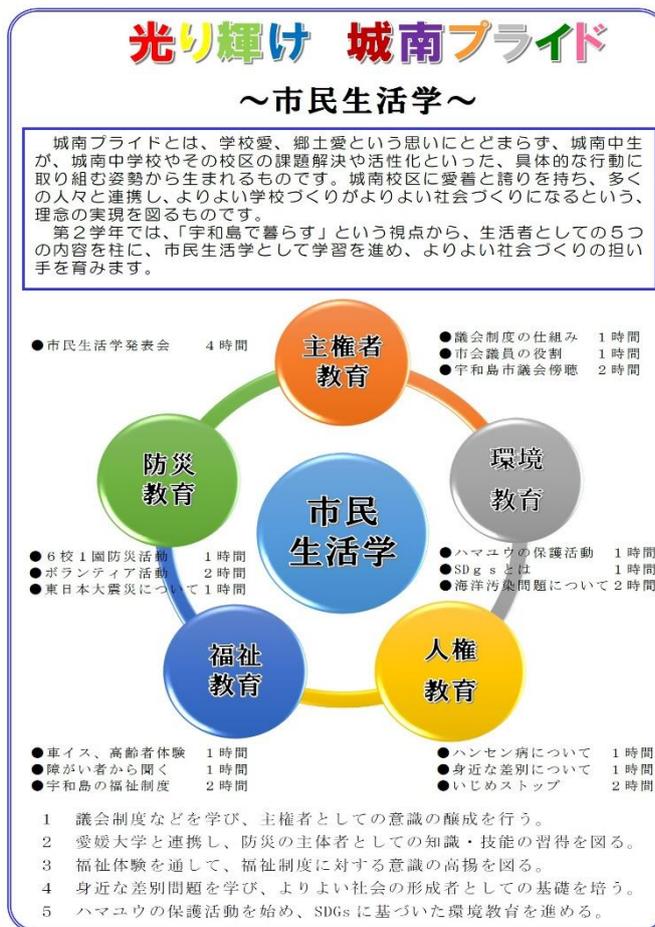


図9. 2年総合全体計画

は、

生徒の感想

市議会議員の方から直接お話を聞くのは初めてなので初めの方は少し緊張しましたが、分かりやすく話をしていただいたので、よく理解することができました。学校にエアコンをつける話などもしていただいたそうで、僕たち学生のことも考えてくれているのだなと思いました。議員の仕事は大変な仕事だと思いますが、やりがいのある仕事でもあるなと思いました。私も、自分の意見をしっかりとと言えるような人になりたいです。



図10. 武田元介議員による講話

② 環境教育

環境教育は、沖の島自然保護活動（以下 はまゆう保護活動）を柱に実施してきた。はまゆう保護活動は、平成 27 年度統合した宇和海中学校生徒会が、絶滅の危機に瀕した沖の島のはまゆう保護活動を受け継ぎ 43 年間継続してきた自然保護活動である。

宇和海に浮かぶ沖の島へ、2 隻の渡船をチャーターし約 1 時間かけて移動した。途中船酔いする者もいたが、宇和海の自然を満喫することができた。40 名の生徒は、学校で育てたはまゆうの苗やハマオモトヨトウムシの駆除用具、水、海浜清掃用具を手に持ち予定通りの活動を行った。

開会行事では、愛唱歌「はまゆうの花」（作詞 米田倫子 作曲 イルカ）を歌い、意識の高揚を図った。特に、愛媛大学教職員大学院の城戸茂教授から、はまゆうの保護活動に対し励ましの言葉をいただいた。現在、東京書籍愛媛県中学校道徳地域資料で公開されている道徳教材「はまゆうのバトン」は、本校の活動を基に城戸教授が作成されたもので、本校の道徳の年間指導計画に位置付け、活用している。

また、音楽科でも、愛唱歌「はまゆうの花」の歌唱指導を行い、合唱コンクールでの全校合唱曲として親しんでいる。

はまゆう保護活動は、愛媛県「三浦保」愛基金公募事業の助成を受けており、本年度は保護活動の周知・啓発を行うため、パネル制作（図 11）にも取り組んだ。今後数年かけてパネル制作を行い、パネル展を行うこととしている。



図 11. はまゆう保護活動のパネル

③ 人権教育

人権教育は、例年 11 月の人権強化月間に、道徳、学級活動を中心に集中人権学習を行っている。宇和島市人権教育協議会の支援をいただき、岡山県の長島愛生園でのフィールドワークに参加した。人権委員会が中心であったが、学習した内容を人権参観日の人権集会で発表し、ハンセン病差別問題についての認識を深めるとともに、保護者への啓発を行うことができた。

④ 福祉教育

福祉教育は、宇和島市社会福祉協議会と連携を行い、第1 次として、宇和島市の福祉の現状や課題、これからの福祉政策について講話していただき、福祉に対する関心を高めた。第2 次は、車いすや、アイマスクを用いての体験活動、実際に福祉の職場で役立つスキルについて学んだ。

第3 次は、講座別に体験したことや調べたことをまとめ、各講座の発表会を行い講座別の体験を共有した。



図 12. 令和元年 12 月 23 日 愛媛新聞

その後、音声グループ「さざなみの会」と協力して、本校の道徳教材「はまゆうのバトン」などを音訳録音し、宇和島市立図書館「パフィオ UWAJIMA」に寄贈するなどの取組に発展した（図 12）。

⑤ 防災教育

防災教育は、本校の特色ある教育活動の一つに位置付けている。それは、6校1園南海トラフ地震津波合同避難訓練の中核校となっているからである。本校の位置する文京町周辺には、幼稚園・小学校・中等教育学校・高等学校が隣接しており、南海トラフ地震における避難行動の状況が発生すると、約3,400名の生徒・教職員が一度に避難行動を起し混乱をきたす恐れのあることから、愛媛県、宇和島市、愛媛大学、消防署、警察署等の協力の下、6校1園南海トラフ地震津波合同避難訓練を行っている。

2年生においては、第1次として、防災マップの確認を行う。自分が生活している地域の防災マップを確認し、危険個所の確認や、避難経路等について知る。第2次として、テーマごと（西日本豪雨、東日本大震災、南海地震、避難経路・場所、防災グッズ、事前復興計画、東日本大震災の復興、災害ボランティア、津波の仕組み）に分かれて調べ学習を行い、生徒が主体となって防災について調べ学習を行う。第3次として、4時間、宇和島市危機管理課、西日本豪雨災害の被災者、NPO法人のボランティア、市立宇和島病院関係者からの講話を聴き、防災を身近な問題として捉えさせる学習を行った。NPO法人うわじまグランマの松島氏から「夏休み中に、全国から宇和島に豪雨災害の支援に来ていただける。その際に使う土のう袋に、皆さんからのメッセージがあると、本当に元気になるのです。」という言葉を受けて、土のう袋にメッセージを入れてみかんボランティアセンターに送る活動を行った。宇和島市内の小・中学校にも働きかけ、約3,000枚の土のう袋を届ける活動に広がった（図 13）。



図 13. 令和元年 9 月 17 日 日本農業新聞

(3) 第3 学年の取組 光り輝け! 城南プライド「UWAJIMA ジョブチャレンジ U-15」

愛媛県教育委員会の「えひめジョブチャレンジ U-15」事業を受け、平成30年度から5日間の職場体験学習を実施することとなった。宇和島市では、「UWAJIMA ジョブチャレンジ U-15」として、市内6校をモデル校とし、連携を図りながら研究推進をおこなった。本校では、「宇和島の産業を具体的に学びその魅力を感じ取る」「宇和島の様々な企業を知り、その魅力を感じる」「宇和島で働く人の姿から、適切な勤労観、職業観を身に付ける」「宇和島に対する愛着を感じる」の4つの目標を基に、8つのステップに分け総合的な学習の時間を構成した（図 14）。

① 「君たちはどう生きるか?」(2時間)

宇和島市では、UWAJIMA ジョブチャレンジ U-15 の開始に当たり、職場体験学習に参加する宇和島市の中学生が一堂に会し、事業のねらいや支援していただく人たちの願い、地域の期待を聞いたり、参加する他校の生徒の考えを聞いたりすることで、本事業への参加意欲を高め、充実した取組になるよう、UWAJIMA ジョブチャレンジ U-15 スタートセッションを平成30年度から開催している。

本校でも、職場体験学習のスタートに位置付け、生徒同士による積極的な意見交換ができるよう生徒による実行委員会を設置し、会の運営や進行も行うなど生徒の主体性を育むことができた。

座談会では、青年会議所の代表者、地元の起業家、地域おこし協力隊、県外在住の弁護士など、夢をもって、

社会の中で生き生きと働いている人たちから、仕事の楽しみや苦勞、中学生に向けたメッセージを送っていただいた。

② 「地元を元気に!」(2時間)

本校の学校運営協議会委員であり、宇和島信用金庫でコミュニティ誌を作成している川尻純慈氏をお招きし、宇和島のよさや宇和島で頑張っている人、また、コミュニティ誌を発刊する意義などについての学習を行い、宇和島のよさに目を向ける学習を行った。

③ 「地元で仕事づくり!!」(2時間)

本校校区で、スジアオノリ養殖などを手掛けるスリーラインズを起業した山内満子氏をお招きし、起業に対する思い、地域活動の中で自分自身が変容してきたこと、地元のよさを学習した。漁協女性部長の就任とキッチンカーの購入から商品開発の苦勞など全国で注目された事業展開や、現代的な自給自足の生活を目指していること、ラッキーと思うと、次々とラッキーなことが起こるなど、前向きに生きる山内氏の姿から、「やる気になれば何でもできる」という思いを共有することができた。

④ 「地元の戦略は?」(2時間)

本校の卒業生であり、宇和島市役所商工観光課に勤務する村上将司氏をお招きし、宇和島市の戦略について学習した。「ミマキガーデン」や「コモテラス」などの過疎地域での地域おこしや外国人観光客誘致等、様々なお話を聞き、行政の役割についての学習を行った。「商工観光課の仕事で楽しかったことは何ですか?」「当たり前を疑問に思うことで得られるものは何ですか?」「仕事をするに当たって大切にしていることは何ですか?」など、たくさんの質問がでるなど主体的な学びができた。

⑤ 職業講話(2時間)

本校の校区で働く様々な業種の7名の講師をお招きして、職業講話を行った。道の駅支配人、パティシエ、じゃこ天製造業者、みかんソムリエ、介護施設経営者、鯛養殖業者、スポーツジムインストラクターの中から、生徒の興味に応じて1人2つの講座を受講できるよう構成した。講師の選定については、学校運営協議会の委員から紹介していただいた。

学校運営協議会の委員であり、PTA会長の梶原永裕氏からは、漁業経営の難しさと喜びについて丁寧にお話しいただいた。道の駅「きさいや広場」支店長の松廣大士氏からは、道の駅の魅力づくり、運営方針、営業についてお話しいただいた。みかんソムリエの二宮新治氏は、みかんの生産からミカンジュースの製造、販売についてお話しいただいた。製品開発の工夫や苦勞話の他、実際にそれぞれの製品につ

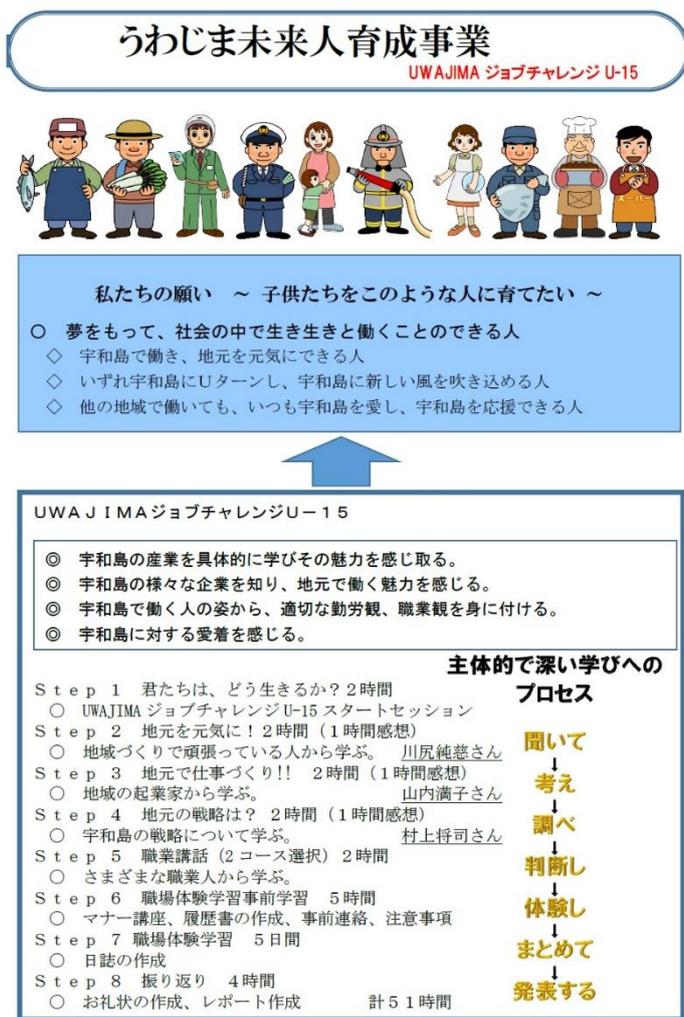


図 14. 3年総合全体計画



図 15. 職業講話 みかんソムリエ

いて味比べなどの体験もさせていただいた（図15）。

当日は、城南中学校学校運営協議会も並行して行われ、委員の皆さんにUWAJIMA ジョブチャレンジ U-15 事業の様子を参観していただいた。

⑥ 職場体験学習事前学習（5時間）

1学期間の学習を通して、職場体験先を決定させ、マナー講座や履歴書作成体験学習、事前連絡などの講座を行うなど、職場体験学習の準備を行った。職場体験学習先には、地域コーディネーターが各事業所を訪問し、各事業所の注意事項、学校の計画など連絡調整を行った。



図16. 愛媛県警宇和島署

⑦ 職場体験学習（30時間）

美容、飲食、製造、小売、保育、介護公共施設、病院、自動車の8業種、34事業所へ、5日間99名の生徒が参加した。体調を崩す生徒もなく、目的を達成できた（図16）。

⑧ 振り返り（4時間）

お礼状のやポスターを作成し各学級で発表会を行った後、城南祭でポスター展示を行った。

5. 成果と課題

（1）城南中学校学校運営協議会

城南中学校学校運営協議会の1年目としては試行錯誤の取組であったが、コミュニティ・スクールに対する理解が得られ、カリキュラムづくりにおいては委員の協力を得ることができた。

第3回学校運営協議会の熟議（図17）では、祭礼の参加や伝統文化の継承、子ども食堂への協力など、学校に対する要望が出された。子ども食堂への協力は、生活人権委員会が中心となり、ボランティア活動の活性化につながった。石砥地区の盆供養「扇子踊り」は、少子化により継続が難しい状態であったが、本校の他地域に住む生徒が自主的参加し、継続することができた。このような祭礼への参加を始め、小学校の運動会にも積極的に参加できるようになった。これらの生徒の活動は、ボランティアスピリットアワード（プルデンシャル生命保険、ジブラルタ生命保険、プルデンシャル・ジブラルタ・フィナンシャル保険生命、日本教育新聞主催）で、令和元年度コミュニティ賞を受賞するなど高い評価を受けた。



図17. グループ別熟議

また、20年間途絶えている伝統芸能「伊達お檜振り」については、令和2年度の総合的な学習の時間で実施するよう年間計画に取り入れることとした。

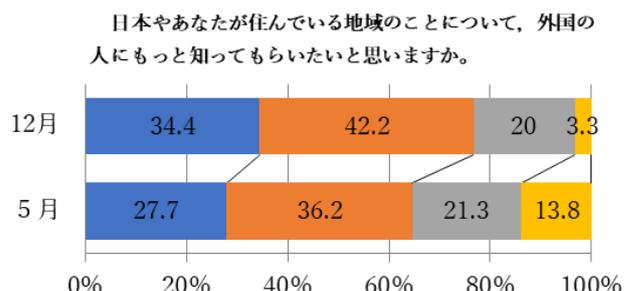
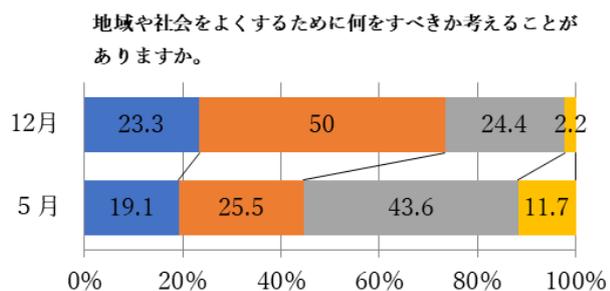
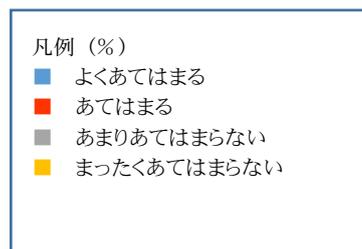
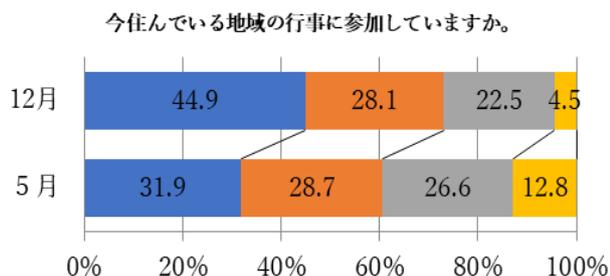
（2）生徒アンケートの考察

全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査の中から、郷土愛の醸成に関わる質問と課題に向かっていく力をピックアップし、3年生（対象96名）を対象に5月と12月にアンケート調査を行った。

○ 郷土愛の醸成にかかわる調査

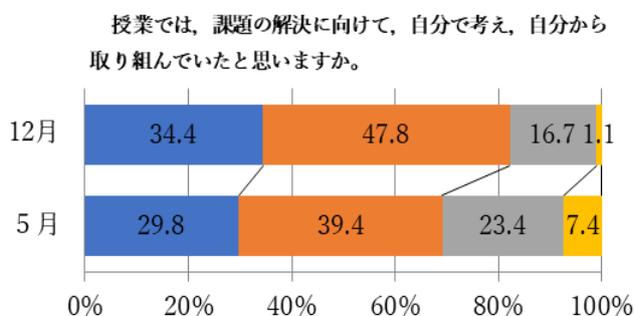
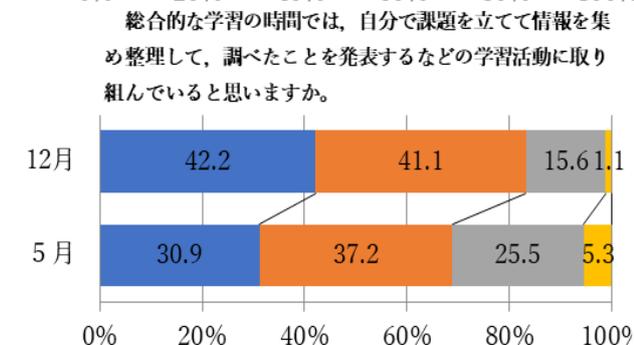
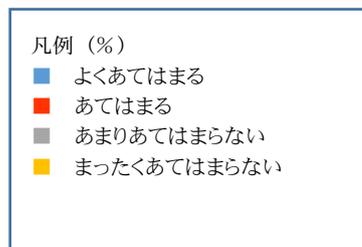
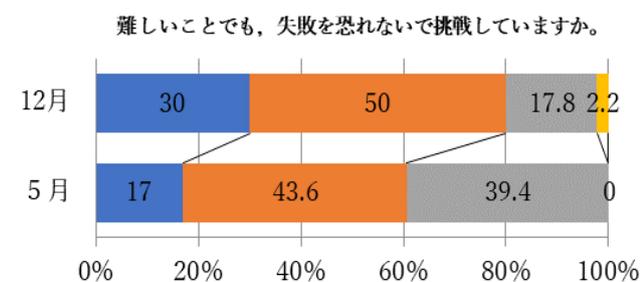
12月調査結果の肯定率（「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた割合の和）は、5月調査に比べ「今住んでいる地域に参加していますか。」は12.4%、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」は28.7%、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」は12.7%といずれも増加している。地域学習や地域行事へ参加し、地域住民と触れ合う中で、地域の良さを知り郷土

に対する愛着が深まったと考えられる。



○ 課題に向かっていく力

12月調査結果の肯定率は、5月調査に比べ「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。」は19.4%、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。」は15.2%、「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」は13.0%と、いずれも増加した。総合的な学習の時間の学習を通じて、地域課題を自分の課題として認識したり、地域の中で様々な課題に立ち向かう大人の姿を知ったりすることで、挑戦することや協働することの大切さを学び、課題に向かっていく力が向上したと考えられる。



(3) 各学年の振り返り

各学年部で、1年間の取組を通しての成果と課題を確認し、次年度の改善点を話し合い、次年度の年間指導計

画づくりを行った。(◇成果について ◆課題について ◎改善点について)

第1 学年

- ◇ 取組自体は非常に良いものであった。地域のことを学んだり、多くの人材を活用したりして、地域の方にも喜んでいただいた。
- ◇ 地域コーディネーターの役割は大きかった。大変ありがたい。
- ◆ 道徳の時間の年間指導計画では、もともと関連した内容の学習が示されているので、意図的に生徒に伝えながら学習させれば良かった。
- ◆ 公民館主事さんとの連携がもっと必要ではないだろうか。
- ◎ 教科等との関連を整理し、年間指導計画を整えて、見直しをもって取り組む必要がある。地域コーディネーターを活用し公民館や自治会との連携について強化を図る。また、伊達お槍振りの復活など、伝統芸能の学習を位置付ける。

第2 学年

- ◇ 市議員さんとの交流は、理想を言えば公民を学び選挙できる年齢に近くなる3年で実施した方が良かったと思うが、せっかく始めた取組なので継続していきたい。
- ◇ 内容としては、今年度の取組で良かった。
- ◆ 防災学習では、ポスター展示で発表を終わらせるのではなく、ポスターセッションでの発表会を行ったり、防災袋の中身を考えて、実際にそれを作ったりするなど、「何か」を残せると更に良かった。
- ◎ 防災袋については学校でそろえて購入し、防災袋の中身を考えたり防災グッズを考えたりする活動を取り入れる。また、福祉学習では、講師の方に何かお返しできる活動を取り入れる。

第3 学年

- ◇ ジョブカフェの「シゴト☆ジブン発見カード」は、とても良かった。
- ◇ 職業講話の内容が良かった。
- ◆ 5日間の職場体験学習は市内3校の実施日が重なっており、事業所の負担を考え、調整が必要と思う。
- ◆ 起業家から学ぶ等の3時間の講座は、中学生の前で話すことが初めての方もおられ、事前にこちらのニーズを伝えておけば良かった。
- ◎ 職場体験学習以外で、地域の協力をいただき産業祭や夜市での物品販売など、起業体験をさせる。また、地域の会社調べを行い、それぞれの会社の特徴や戦略を学ぶ学習を取り入れる。

(4) おわりに

「光り輝け! 城南プライド」の合い言葉のもと、総合的な学習の時間を柱としたカリキュラム・マネジメントを学校運営協議会の理解と支援を受け実施してきた。各学年主任のリーダーシップにより、学年部の教員がそれぞれの能力を発揮することで、豊かな取組を創造することができた。また、教頭や教務主任の調整力により、円滑に学校運営を進めていたことも評価しなければならない。さらに、地域コーディネーターが、教員時代に培ってきた経験をもとに、カリキュラム・マネジメントに関わってくれたことが、各学年主任の負担感を軽減させ、活動の充実にもつながったと考える。

一方、本年度はコミュニティ・スクール1年目の年であり、PTA総会や第2ブロック会議(公民館長・主事の合同研修会)などの機会を得て啓発は心掛けていたものの、保護者や地域の理解はまだ十分なものではなかった。今後も継続的な啓発を行っていく必要がある。一部ではあるがコミュニティ・スクールに理解を示し協働体制を整えていただいている地域もできてきた。各学年の反省を基に総合的な学習の時間の年間計画の改善や地域との連携の強化を図りながら、継続性をもった取組に発展させなければならない。

本発表後、これまでに経験したことのない新型コロナウイルス感染症による学校経営の危機が全国を襲った。本

校においては、2月中旬に校内の対応方針を作成し、2週間の臨時休業措置に対応できるよう各教科で家庭学習の準備に取り掛かることとしていた。

2月27日の夕刻からPTA評議委員会を開催し、1年間の反省と次年度の計画、学校の新型コロナウイルス感染症対策を協議し、全ての議案を了解していただいた。その直後、安倍首相による全国臨時休業のニュースを知ることとなった。コロナ禍の中で、城南中学校学校運営協議会の底力と学校のカリキュラム・マネジメント能力が試される1年が、ここからスタートすることとなる。コロナ禍における2年目の城南中学校学校運営協議会とカリキュラム・マネジメントの取組など、後日機会があれば発表したいと考えている。

参考文献

- 古谷和夫（2000）『いのちなる海～相互扶助の道を求めて～』佐川印刷
中村英利子（2007）『海と真珠と段々畑』アトラス出版